

79年から「帝王学」伝授

後継者育成講座 修了生1000人輩出

アマダの職業訓練法人であるアマダスクール（神奈川県伊勢原市、伊藤克英理事長）が運営する「JMC経営後継者育成講座」が着実に実績を上げている。1979年の開設以来、1000人以上の修了生を輩出。中には親、子、孫と3代にわたって受講した事例もある。中小製造業の課題でもある事業継承支援とともに、金属加工業界の未来への貢献という大きな役割を担っている。



JMCの講義

アマダスクール

「機械を売るだけでなく業界の発展に貢献することが、板金業界のトップリーダーとしての責任だ」。伊藤理事長は、アマダが後継者育成支援に取り組む意義をこう説く。

JMCは、中小製造業の後継者を対象とする22日間の合宿研修で年3回開催している。

外部からコンサルタントや中小企業診断士、教育者らを講師として招き、経営者になったための基礎知識や心構えを植え付ける。

カリキュラムは、経営者の仕事や経営指標の分析、労務管理、現場改善活動に関する座学や企業見学、経営疑問体験などで構成。企業員学では、経営の現実や生産現場の工夫点について企業経営者から生の声を聞くことができる。また自社の強みをプレゼンテーションする授業や、JMC修了生を招いて受講当時の体験談を聞く機会なども設けている。

こうした幅広い講座内容を通じて、受講者には「将来の経営者としてリーダーシップを発揮するための帝王学を学んでもらう」（伊藤理事長）。修了生にとっては経営ノウハウの習得に加えて、事業継続に不可欠な人脈形成につながる点も大きな魅力だ。「修了生同士のつながりを自社のビジネスに生かした事例もある」（泉井宏之、常務理事）という。

受講者は20代後半から30代が多く、近年は女性も増えている。そのため、女性向けの宿泊施設の確保などを通じて女性受講者の受け入れ態勢を充実させることが必要となる。

また、伊藤理事長は「カリキュラムを時代 に即した内容に、より機動的に変えていくことが重要だ」と指摘。

親・子・孫3代受講も

営者の仕事や経営指標の分析、労務管理、現場改善活動に関する座学や企業見学、経営疑問体験などで構成。企業員学では、経営の現実や生産現場の工夫点について企業経営者から生の声を聞くことができる。また自社の強みをプレゼンテーションする授業や、JMC修了生を招いて受講当時の体験談を聞く機会なども設けている。

こうした幅広い講座内容を通じて、受講者には「将来の経営者としてリーダーシップを発揮するための帝王学を学んでもらう」（伊藤理事長）。修了生にとっては経営ノウハウの習得に加えて、事業継続に不可欠な人脈形成につながる点も大きな魅力だ。「修了生同士のつながりを自社のビジネスに生かした事例もある」（泉井宏之、常務理事）という。

受講者は20代後半から30代が多く、近年は女性も増えている。そのため、女性向けの宿泊施設の確保などを通じて女性受講者の受け入れ態勢を充実させることが必要となる。

また、伊藤理事長は「カリキュラムを時代に即した内容に、より機動的に変えていくことが重要だ」と指摘。